

No.	設問 回答者名	回答者の会派	問1	ア	イ	ウ	エ	問2	ア	イ	ウ	エ	問3	ア	イ	ウ	エ	
			町田市の歴史・文化や生涯学習の振興を促す事業はほとんどない	既に一定水準の施策実施	限られた財源で止むを得ない	均衡を失って大いに問題	その他(具体的に)	地域の歴史や民俗を総合的に扱う施設がない	どうしても必要な施設ではない	学校の余裕教室等活用で郷土資料館的な機能果たせる	郷土資料館は必要、専用の施設を設置	その他(具体的に)	地域図書館の統廃合	統廃合はある程度やむを得ない	最低限の図書数を維持すべき	必要に地域図書館を新設すべき	その他(具体的に)	
1	馬嶋 寛	無所属 新人			○					○					○			
2	わたべ真美 きくちしげこ	まちだ市民クラブ 現職 新人					各地域の高齢者支援センターを拠点として介護予防の目的でサークル作りが盛んになってきている。これも広い意味での生涯学習と言えるのかもしれないが、市民が育ち学び合う場を提供しサポートするのが生涯学習であると考えたとその分野がどんどんせばめられ公民館の力が弱くなっているように思える。経済不況の中、民間は目先のことに終始せざるをえない今こそ、官の役割として次世代の社会を担っていく人間を育てていくこと、利己的人間ではなく、利他的人間を育てていくことによって、より町田のことを考えられる人材育成を念頭に入れて、事業を考える必要があると思う。					現存する施設を手直して活用する方法を模索したい				○		調布市は、子どもや高齢者、障害者も行きやすい範囲に一つずつ設けている。しかし人口動向も考慮しなければならない。増やして規模を縮小するのか、複合施設にするのか様々な選択肢を検討する必要がある。
3	森本せいや	まちだ市民クラブ 現職			○		イに近いが、町田市独自の取り組みや歴史をしっかりと後世に残していくような意識が薄いように感じている。単に財源だけの問題で割り切れない部分が残る。					○ 既存の施設の意義や地域的な意味をしっかりと説明や理解を得ないままの計画が進んでいる様に感じる。新設施設の内容も不確かで、地域住民の方の不安は理解できる。				○		イだが、広範な地形の町田市において、現状の拠点数だけでも十分であるとは言い難い。他市連携も進んでいるが、様々な手法を使いより図書に親しめる環境づくりを求めたい
4	松岡みゆき	自民党 現職					○ バランスが必要なので、検討していく必要がある			○					○			
5	おく栄一	公明党 現職					○ 町田市の歴史・文化や生涯学習の振興を一層促す必要があると思います					○ 町田市らしい地域の歴史や民俗を伝承していくことは大切だと思います					○ 市民が等しく図書館サービスを楽しめるよう、IT化を含め、あらゆる努力を行うべきであると思います	
6	斎藤かつひろ	公明党 新人					○町田市の歴史・文化や生涯学習の振興を一層促す必要があると考える					○ 地域の歴史や民俗を伝承することは大切と考える					市民が等しく図書館サービスを楽しめるよう、IT化を含め、あらゆる努力を行うべきである	
7	山下哲也	公明党					○ 町田市の歴史・文化や生涯学習の振興を一層促す必要があると思います					○町田市らしい地域の歴史や民俗を伝承していくことは大切だと思います					○ 市民が等しく図書館サービスを楽しめるよう、IT化を含め、あらゆる努力をする必要があります。	
8	田中美穂	日本共産党 新人					○歴史や文化、生涯学習に関する施策が焦点になっていないと考えます。同時に、暮らしや福祉、教育に関する内容が少なく、野津田公園や南町田周辺の開発などが中心になっていることが問題だと思えます。				○	* 市議会でも『町田市立博物館』を存続されることを要望する請願が賛成多数で採択されていて、郷土資料を積極的に活用する方策が必要だと考えます。				○	鶴川地域では、鶴川団地内の図書館の現在地存続を求める請願が、商店街や地域の方からの多数の署名で提出、賛成多数で採択されています。ホプリホールの図書館が増えたことは歓迎されています。生涯学習を支える図書館の充実が必要だと考えます。	
9	三遊亭らん丈	自民党 現職			○							○ 市立図書館を含めて、市内の公共施設も将来的には再編成するのやむを得ないものと考えます。					○ 現在の図書館は維持すべきものと考えますが、これから町田市も人口が減少していく中で、どうしたらSDGSを達成できるかを考えなければならない	

10	若林あきよし	自由民主党			○				○								箱物ではなく、地域での図書機能の充実を図るべき。			
11	佐々木智子	日本共産党				○	大型開発中心で、福祉や教育は重点になっていない。				○						○	成瀬台などからも要望あり、移動図書館の充実も必要。		
12	細野りゆう子	日本共産党			○		歴史、文化、芸術が軽視されている。				○	町田の歴史を学び保存していくことは絶対に必要。					○	南町田に図書館増設を。		
13	いわせ和子	自民党					○	財源に限られる中で、より切実な課題に対応する必要がある。								○				
14	戸塚正人	市民クラブ						○	予算面、政策面ともに振興する必要がある。									○	図書館を廃合するよりも、他の行政サービスを図書館でも受けられるようにしたい。	
15	佐藤和彦	市民クラブ			○													○		
16	的場真木子	幸福実現党			○													○		
17	藤田 学	自由民主党					○	歴史、文化、生涯学習の振興は重要、もっと力を入れたい、リカレント教育も。										○	機能を含めて、統廃合ではなく、再配置すべき。	
18	渡辺巖太郎	自由民主党					○	歴史文化を学ぶことはアイデンティティの構築に不可欠。学ぶ場の確保が重要。											○	市民ももっと図書館を利用し、必要性を訴えるべき。
19	吉田つとむ	保守連合																		
20	おぜき重太郎	まちだ市民クラブ					○	限られた財源の中でも市民の発表の場などできることから提案していく。										○		
21	殿村健一	日本共産党					○	「5ヶ年計画17-21」は、財政難を強調しながら、市民負担増と市民サービス削減をするもので、その金で4つの公園に200億円を費やす内容で、市民犠牲の計画です。										○	市民が主体のまちづくりに地域図書館は必要不可欠です。小規模な図書館を含めて増やしていくべきです。	
22	園城由久	公明党					○	町田市の歴史、文化や生涯学習の振興を一層促す必要がある。											○	市民が等しく図書館サービスを楽しむことができるよう、IT化を含め、あらゆる努力を行うべきである。
23	松葉ひろみ	公明党					○	町田市の歴史、文化や生涯学習の振興を一層促す必要がある。											○	市民が等しく図書館サービスを楽しむことができるよう、IT化を含め、あらゆる努力を行うべきである。
24	村松俊孝	公明党					○	町田市の歴史、文化や生涯学習の振興を一層促す必要がある。											○	市民が等しく図書館サービスを楽しむことができるよう、IT化を含め、あらゆる努力を行うべきである。
該当する○の合計数			0	0	5	2	16	0	0	3	7	13	0	0	7	5	11			

町田市議会議員候補宛公開質問状回答(問4～問6)

No.	設問 回答者名	問4	ア	イ	ウ	エ	オ	問5	ア	イ	ウ	エ	問6	ア	イ	ウ	エ	
		資料購入費の大幅な削減	もつ減らすと止むを得ない	現状を維持すべき	一定の増額が必要	せめて2012年度水準に戻すべき	その他(具体的に)	再編計画の存在や内容が市民に周知・理解が足りないのでは	市民に充分周知されている	各論についてはスケジュールに従い市が主導して決める	市民にさらに周知努力をし、計画づくりを拙速に進めない	その他(具体的に)	公共施設の建物と機能を分けて考え、集約・統合することで施設総数を減らす	きわめて妥当な考え方	個々の施設に即して考えるべき	原則、集約・統合はすべきではない	その他(具体的に)	
1	馬嶋 寛				○						○				○			
2	わたべ真美 きくちしげこ				○							○計画策定までのスケジュールは明らかになっているが、計画策定後も市は計画が市民に周知されるよう努めて、各論にも市民の意見を反映していくべきである。個別施設の存廃の話になると、必ず総論賛成各論反対の厳しい話になってしまうので、その前段の、個別施設の在り方論とランドデザインをどう描くか、という視点で、市民参加の討議をすべき						○市民の日常生活に不可欠な公共施設は、できる限り身近な場所に設置・存続すべき、その上で個々の施設に即して考えるべきである。⇒イとウの中間の意見です
3	森本せいや				○		財源論を無視することは出来ないが、一定の水準の確保は、図書の高質を担保するためにも行政としては必要であると思う。その適正水準がどこなのか、慎重に見極める必要がある。					○ 議会に対する説明も、事後的なものに終始しており、市民の代表機関である議会が議決したものでない。各施策に計画が反映された段階での議論か、議会権限の拡大を以て、各種計画を議決するのか、議論が続けられているところである。			○			財源論やこれからの需要減少を無視はできないものの、方針ありきで計画を作ることに無理がある。地域事情、施設特性によって集約、統合、残存を考えていくのが、当然のことだと思う。
4	松岡みゆき				○						○				○			
5	おく栄一						○IT化の進展を踏まえ、図書館のあるべき姿も変革を迎える時期にあり、時代に照らして量・質ともに充実が必要と考えます。					○ 市は多くの市民に関知されるよう継続して努力すべきであり、各論の推進においては丁寧に行うべきであると考えます。						○ これからの建て替えや維持管理コストを考えれば、極めて妥当な考え方であるが、建物と機能の分離や集約・複合といっても、施設ごとに環境や条件が異なるので、個々の施設に即して考えるべきであると思います。
6	斎藤かつひろ						○IT化の進展を踏まえ、図書館のあるべき姿も変化を迎えており、時代に照らして充実が必要と考える					○市は多くの市民に関知されるよう継続して努力すべきであろう。各論の推進においては丁寧に行うべきである						○これからの建て替えや維持管理コストを考えれば、極めて妥当な考え方であるが、建物と機能の分離や集約・複合といっても、施設ごとに環境や条件が異なるので、個々の施設に即して考えるべきである
7	山下哲也						○ IT化の進展を踏まえ、図書館のあるべき姿も変革を迎える時期にあり、時代に照らして量・質ともに充実が必要と考えます。					○ 市は多くの市民に関知されるよう継続して努力すべきであり、各論の推進においては丁寧に行うべきであると考えます。						○これからの建て替えや維持管理コストを考えれば、極めて妥当な考え方であるが、建物と機能の分離や集約・複合といっても、施設ごとに環境や条件が異なるので、個々の施設に即して考えるべきである
8	田中美穂					○	日本共産党市議団は、図書購入費が削減された時に、削減すべきでない論戦してきました。予算的にいくらが妥当かは判断が難しいですが、図書の充実が、図書館の利用の増加につながると考えています。				○	*この間、公共施設の再編について、市議会にも多数の請願が出されており、知った市民からは反対の声があがっています。同時に、市民がまだ知らないために、判断ができない状況だと思えます。					○	
9	三遊亭らん丈				○						○						○集約・統合は将来的にはやむを得ないが、くれぐれも市民にその必要性を説明しなければならぬ。	

10	若林あきよし				○						○各論については市民の声を積極的に聴くべき				○			
11	佐々木智子					○				○						○		
12	細野りゆう子					○				○	請願が次々寄せられている。もっと情報を知らせるべき。					○	公共施設は市民の財産。各々の役割を継続して担うべき。	
13	いわせ和子				○						○市はもっと多くの市民に周知されるよう努力すべき。				○			
14	戸塚正人				○					○					○			
15	佐藤和彦					○				○					○			
16	的場真木子				○					○					○			
17	藤田 学					○				○	ワークショップなど、市民協働を進めるべき。						○集約・統合によって相乗効果も求める。コスト論だけで賛否を問うべきではない。	
18	渡辺徹太郎									○	○市民に広く寄付を募り、蔵書数を増やすなどの魅力向上策が必要。					○		
19	吉田つとむ																	
20	おぜき重太郎				○					○						○		
21	殿村健一					○				○	5か年計画の大型開発偏重の内容を改めれば、図書購入費を増やし、2012年水準に戻すことは可能。					○	公共施設がなくなれば、地域コミュニティは崩壊します。時間をかけて築き上げたコミュニティを守るためにも、公共施設は守らねばなりません。	
22	園城由久										○IT化の進展を踏まえて、図書館のあるべき姿も変革を迎える時期にあり、時代に照らして量・質ともに充実が必要。							○これからの建替えや維持管理コストを考えれば極めて妥当な考えであるが、建物と機能の分離や集約・統合と言っても、施設ごとに環境や条件が異なるので、個々の施設に即して考えるべき。
23	松葉ひろみ										○IT化の進展を踏まえて、図書館のあるべき姿も変革を迎える時期にあり、時代に照らして量・質ともに充実が必要。							○これからの建替えや維持管理コストを考えれば極めて妥当な考えであるが、建物と機能の分離や集約・統合と言っても、施設ごとに環境や条件が異なるので、個々の施設に即して考えるべき。
24	村松俊孝										○IT化の進展を踏まえて、図書館のあるべき姿も変革を迎える時期にあり、時代に照らして量・質ともに充実が必要。							○これからの建替えや維持管理コストを考えれば極めて妥当な考えであるが、建物と機能の分離や集約・統合と言っても、施設ごとに環境や条件が異なるので、個々の施設に即して考えるべき。
該当する○の合計		0	0	0	10	6	7	0	0	0	13	10	0	0	10	4	9	

町田市議会議員候補宛公開質問状回答(問7、問8)

No.	設問 回答者名	問7	ア	イ	ウ	エ	オ	その理由	問8	未来派指数
		これまで12年間の石阪市政について	大いに評価	まあ評価	どちらとも言えない	あまり評価しない	全く評価しない			
1	馬嶋 寛				○				同封のチラシをご参照ください。まっすぐ じっくり まちだを かんがえる	0.71
2	わたべ真美 きくちしげこ				○			ゴミ減量政策はごみゼロ市民会議の討議が実現し(全面的とは言えないが)市民案に行政の政策が追いついてきたと感じている。一方、野津田陸上競技場の改修計画が8年前に持ち上がってから、次々と改修が追加される現状は看過できない。野津田公園のみならず公園整備のあり方にも、多くの疑問を感じる。予算配分がシティーセールスに偏り過ぎ。行き過ぎた職員削減。図書館など悲鳴を上げている部署がある。若い世代の困りごとを理解できていない。男女平等参画の推進スピードが遅い。	学校教育・自ら学ぶ学習への移行。情操教育の定着。すべての子どもが学習する楽しさを感じる環境を作りたい。自主自立を尊重する学校運営。あらゆる子どもの支援現場に子どもの権利の理念を生かす。LGBTなど、多様な悩みに対する相談窓口のスキル向上。横の連携強化。公園の作り方・自然の景観を活かした公園づくり、河川や水路の整備が必要。介護家族の支援、学校図書館の充実など。・主役は市民であるべきなのでまちづくりへの市民参画、特に子どもの参画を促して市民と行政が協働で暮らしやすい地域をつくる。	0.79
3	森本せいや				○				議員としての個人的な政策的な趣向はあるが、私はどちらかと言えば、いかに市政に対し 市民の方々に興味を持って貰うかに、力を注ぎたい。市長や議員への政策的取り組みや政治姿勢について、市民の方が『常に』厳しい目線を以て監視に臨めば、それがすなわち市長や議員の政治・政策行動に繋がるように思う。その意味で、4年に1度しかない市長・市議会議員選挙はとても重要な機会であると感じている。	0.75
4	松岡みゆき				○			平成24年に、市では全国の市町村において全国初の企業会計方式(複式簿記の発生主義)における新公会計制度を導入しました。今までの単式簿記の現金主義会計では把握できなかった価値や時期をより正確に把握できるようになったため	①少子化対策です。このままでは社会保障制度が破たんします。出生数を上げるには、若者の雇用を確立し、結婚できる社会を作り、一人でも多くの赤ちゃんが誕生するためには、母と子が暖かく迎えられる支援と若い夫婦が安心して子育てできるようにバックアップする市政にすることです。 ②「災害に強い町」「災害に迅速に対応できる町」の体勢作りが急務です。災害時に市民の命を守るためには、行政に自衛官による危機管理監の採用をし、防災に対する日常の備えが大事です。市民が安心安全に暮らせるような「まちづくり」を目指します。	0.67
5	おく栄一				○			行政改革を推進し、子育て支援や高齢者福祉などに積極的に取り組んでいると思います。	①私の提案で、2012年4月新公会計制度の導入をさせていただきましたので、更なる財政の見える化を図っていきたい。 ②町田市は、まだまだ都市としてのポテンシャルがあるので、魅力ある街づくりをしていきたい。 ③豊かな自然を生かした、市民の健康づくりを推進していきたい。 ④時間も場所も想定できない災害が発生するようになりましたので、改めて地域の防災体制を見直していきたい。	0.67
6	斎藤かつひろ							行政改革を推進し、子育て支援や高齢者福祉などに積極的に取り組んでいる	町田市西部地域の交通不便地域の解消に向け小型公共交通の導入、地域の特性に合わせたまちづくりの推進、地域活性化と行政サービス拡充。	0.67
7	山下哲也				○			行政改革を推進し、子育て支援や高齢者福祉などに積極的に取り組んでいる	団地や公園を活用した子育て支援の拡充。安全な街を目指し、防犯灯、防犯カメラを増設。障がい者や高齢者、子ども目線で安全対策の実施。ニュースポーツ、パラスポーツ振興で街の活性化。モノレール、小田急多摩線の延伸へ街づくりを推進。	0.67
8	田中美穂						○	理由:認可保育園の保育料、学童保育の育成料の値上げ、国民健康保険税の値上げや、市の施設の利用料を値上げし、全世代向けの負担増を行ってきた一方、大型開発には巨額の税金を使い、市民の生活、暮らしを圧迫してきたことです。	教育、福祉の分野です。 ・すべての子どもたちの育ちを支える中学校の全員給食。 ・認可保育園の増設、お金の心配なく子育てできる支援。 ・年金で入れる特養ホームの創設 ・身近な公共施設(例えば、鶴川図書館、自由民権資料館など)の存続。 ・認可保育園の増設、お金の心配なく子育てできる支援。 ・野津田公園の緑を守る取り組み。 など、市民の皆さんの声を集め、市民の皆さんとともに、暮らし、福祉、教育優先の町田にしていきたい。	1.00
9	三遊亭らん丈				○			行政改革や会計制度改革は目覚ましいものがある。中心市街地のまちづくりは思うように進んでいない。	2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」を基礎自治体である町田市も無視して行政を進めることは不可能だと考えています。	0.67

10	若林あきよし			○				職員の意識改革や能力向上にかなり評価できる。	超長寿社会対策として、認知症対策、シニア創業支援、介護従事者の処遇改善。学校教育の充実策として、町田の英語教育の推進、学校体育館の冷暖房整備。子どもの居場所づくりとして、「新しいまちとも」の推進。	0.63
11	佐々木智子						○	市民への負担を押し付ける一方で、大規模開発に莫大な税金を投入している。	関心のあるなしにかかわらず、市民の皆さんの声にしっかり耳を傾け、住民の福祉増進を本旨とする地方自治体としての役割を果たすよう議会で全力を尽くしたい。	1.00
12	細野りゆう子						○	自治体が株式会社化し、「価値」を高める投資が最優先。市民の声や生活実態に背を向けている。	教育の充実や子育て支援、福祉の充実を今後も力を入れていきたい。中学校給食の全員対象とした小学校給食のような形への転換は今後の最優先課題。また今、生涯学習や男女平等の事業がさらに後退させられるのをストップしたい。町田市で息づく自主的な学習を支援する市政を進めたい。これまで取り組んできた高齢者・障がい者福祉は、制度や市の方針が後退する中、少しでも前へ進めるようがんばります。	1.00
13	いわせ和子			○					子どもを育てる現役の母親として、今(現実)だけを見て物事を判断するのではなく、10年、20年後の先を見据えて物事を判断する必要がある。子育て支援、障がい者、高齢者の支援について関心大。	0.58
14	戸塚正人						○		①中心市街地の活性化 ②文化芸術の振興 ③空家の利活用の促進 ④交通不便地域の解消 ⑤子育て・保育環境の充実	0.71
15	佐藤和彦						○		陸上競技場観客席増設・薬師池公園ゲートハウス計画・国際工芸美術館計100億円の再検討。認知症高齢者ご本人と家族介護者が安心した暮らせる町田市に。	0.88
16	的場真木子			○					生涯学習、地域コミュニティづくり、自治会活動の活性化への働きかけなど、市民の声をお聞きし、活動に生かします。	0.71
17	藤田 学						○	本当の評価は4年後。	・教育の充実(予算確保も含めて)、リカレント教育もプラス ・地域包括ケアシステム(医療・介護)+子育て支援包括支援センターの設立 ・交通の充実 ・忠生バリューアッププランの実現	0.66
18	渡辺巖太郎						○	町田市の行政改革レベルは日本でも有数。行政のプロでないといけない。	政府の地震調査委員会が、南海トラフ地震が今後30年以内に発生する確率を80%に引き上げた。町田市の災害対応能力の向上に一層力を注ぎたい。また、都内最大規模の消防署の建設が本町田に叶った今、他の地域に比べて3倍も多い救急出動回数がある中心市街地に出張所を建設し、救急体制の強靱化を図り、住民の福祉の充実に寄与したい。	0.63
19	吉田つとむ								パンフレット参照。	
20	おぜき重太郎						○	市政の安定という意味では評価できる面もあるが、地域の医療サービス差是正など取り組んでほしい面がたくさんある。	地域の医療サービス差是正(メディカルセンター開設、一次救急体制充実)、公共バス網充実、乗り合いタクシー実証実験支援、交通の隙間を埋める。	0.71
21	殿村健一						○	地方自治体の最大の役目は「住民福祉の増進」にあります。国保税や保育料の値上げ、教育福祉事業の削減、公共施設の削減に力を入れ、浮かせたお金で大型開発に熱中してきた姿勢でした。地方自治体としての町田市を破綻に追い込んできました。最悪の市政転換が必要です。	市民とともに考え、作り上げていくまちづくりです。町田市民は素晴らしい知恵とパワーを持っていると思います。市民を信頼することで、町田市の行政のすべての分野で新しいとりにくみをする事ができると思います。	1.00
22	園城由久						○	行政改革を推進し、子育て支援や高齢者福祉等に積極的に取り組んでいる。	町田の未来をひらくため、お子様からご年配の方までのすべての世代に光を当てた政策の実現を目指します。特に子育て支援、文化・スポーツ振興、と健康促進、交通利便性の向上に力を入れていく。	0.67
23	松葉ひろみ						○	行政改革を推進し、子育て支援や高齢者福祉等に積極的に取り組んでいる。	1. 高齢化社会にむけて、町トレの普及と楽しく健康づくりが行える環境整備。 2. 子育て支援として、給食費無償化と温かくておいしい給食の提供。 3. 防災士として女性の視点を生かした防災対策・防災意識の啓発。 4. 学校における医師や第三者による「がん教育」の推進。	0.67
24	村松俊孝						○	行政改革を推進し、子育て支援や高齢者福祉等に積極的に取り組んでいる。	若年層の定住促進。子育て支援。町田駅周辺の再開発。	0.67
該当する○の合計		0	3	10	5	1	4	17	24	